

平成28年8月29日からの 台風10号による出水状況等について

平成28年8月31日 16:00現在

第3報（抜粋）



国土交通省 関東地方整備局
荒川上流河川事務所

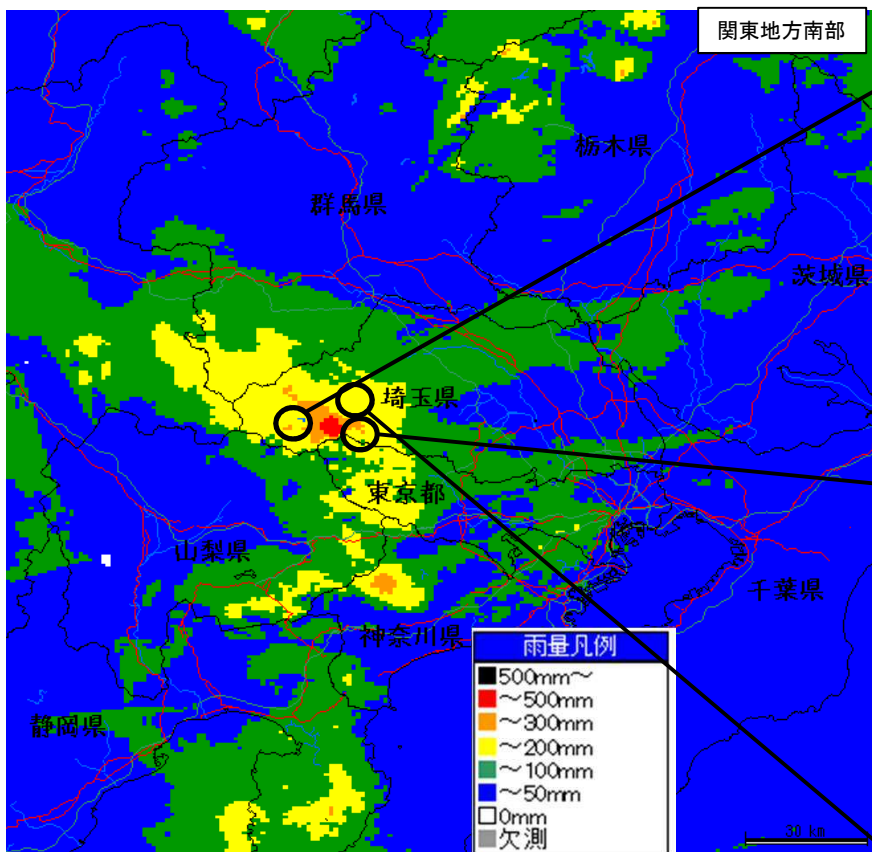


降雨の状況

8月29日～8月30日までの総降水量

期間内の総降水量分布図

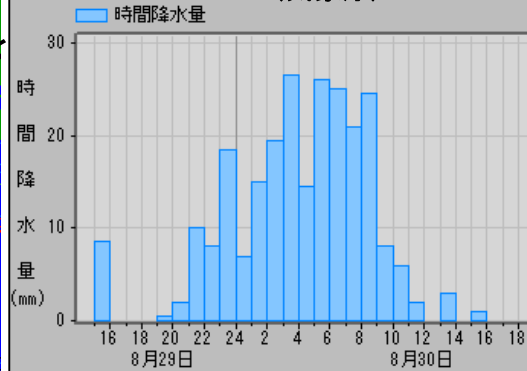
(8月29日18時00分～8月30日18時00分)



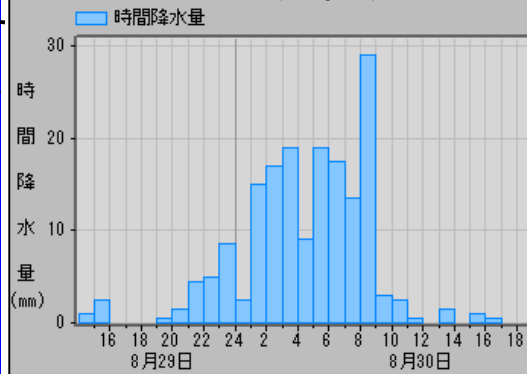
降水量の多かった主なアメダス地点

(8月29日15時00分～8月30日18時00分)

アメダス地点名：三峰 (気象庁)



アメダス地点名：浦山 (気象庁)



アメダス地点名：秩父 (気象庁)



平成28年8月29日から30日にかけて、台風第10号の接近に伴い、台風外側の雨雲や帯状の雨雲により、山沿い中心に時間30mm/h程の激しい雨が降った。

台風の接近に伴い、29日18時から30日18時までの24時間雨量は、秩父市三峰で238ミリ、秩父市浦山で171ミリ、秩父市秩父で158ミリを観測した。



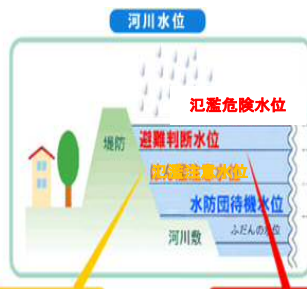
荒川上流部における出水の状況



- 凡例
- ▲ 基準水位観測所
 - 雨量観測所
 - 水防団待機水位
 - 氾濫注意水位
 - 避難判断水位
 - 氾濫危険水位

■平成28年8月30日 22:00 までの最高水位 (※水位は速報値)

河川	観測所	生起日時 <small>※毎正時の値で記録</small>	記録水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位
荒川	熊谷	8月30日 13:00	4.04 m	3.00m	3.50m	5.30m	5.90m
	治水橋	8月30日 22:00	6.62 m	7.00m	7.50m	12.00m	12.40m
入間川	小ヶ谷	8月30日 14:00	1.13 m	2.00m	2.50m	3.70m	3.90m
	菅間	8月30日 20:00	4.19 m	7.00m	8.00m	11.50m	12.00m
越辺川	入西	8月30日 11:00	0.08 m	2.00m	3.00m	3.00m	3.20m
小畔川	八幡橋	8月30日 11:00	1.97 m	3.00m	3.50m	4.30m	4.50m
都幾川	野本	8月30日 14:00	1.31 m	2.00m	3.50m	3.70m	4.10m
高麗川	坂戸	8月30日 14:00	0.55 m	1.00m	1.50m	3.20m	3.50m



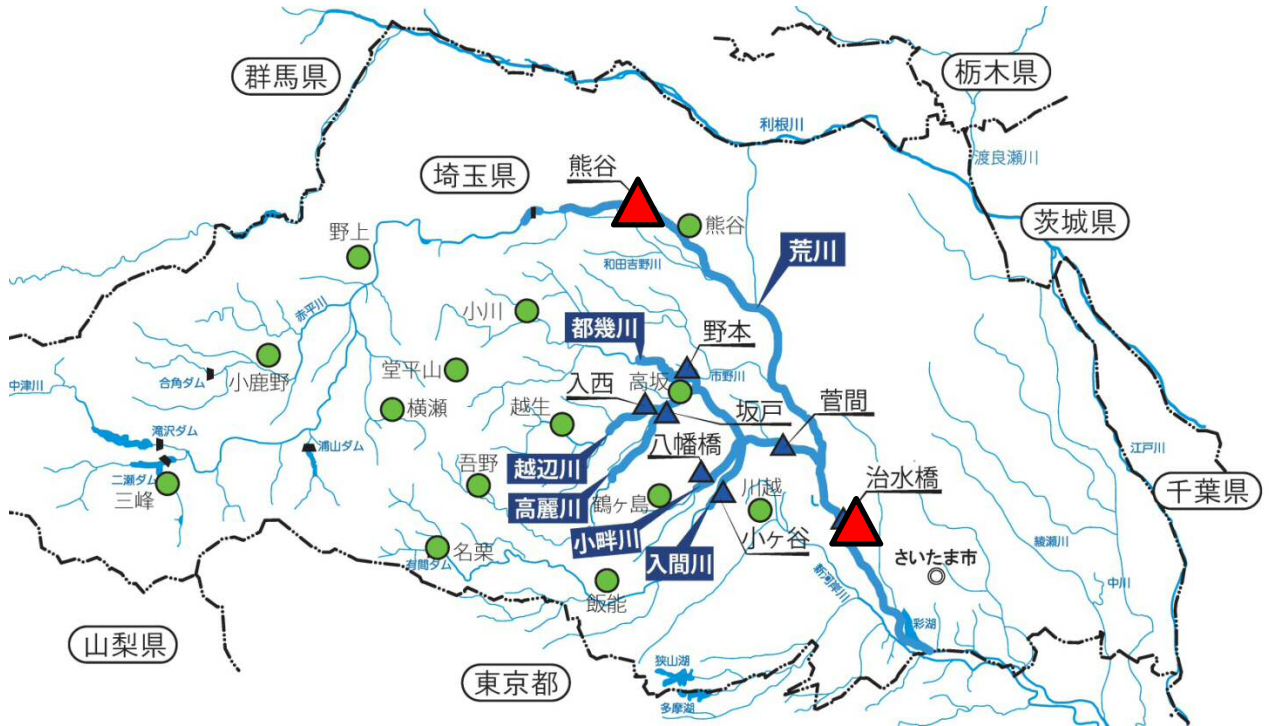
河川水位	沿川住民の方々は...
氾濫危険水位	重大な災害が発生するおそれがある水位 氾濫警戒情報が発表された場合、市町村長が発する避難情報に注意してください。また、避難勧告が出た場合は、水防団等の指示に従って速やかに避難してください。
避難判断水位	避難等の参考になる水位
氾濫注意水位	水防団が出動する水位 氾濫注意情報が発表された場合、沿川住民は、いつでも避難できるよう、身支度や防災用品の準備をしてください。また、河川情報を常にキャッチしておくことも忘れずに。
水防団待機水位	水防団が準備を始める水位

※比較が可能な昭和53年以降の同地点の水位における記録



出水の状況

※ 【今回の出水時】の画像は各観測所で最高水位を記録した日時に近い時刻のものです。



平常時

今回の出水時



※荒川 熊谷観測所では**氾濫注意水位**を超えました。





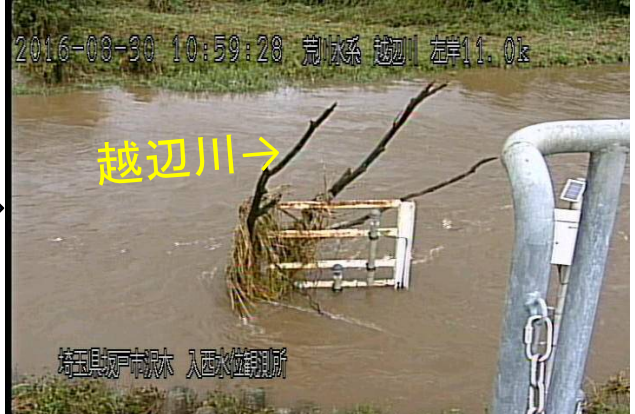
出水の状況

※ 【今回の出水時】の画像は各観測所で最高水位を記録した日時に近い時刻のものです。



平常時

今回の出水時



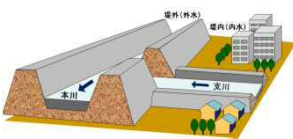
排水機場の運転状況

■管内排水機場 稼働実績

排水機場 (排水経路) 排水能力	通殿川排水機場 (通殿川→和田吉野川) 5~15 (m ³ /s)	川島排水機場 (安堂川→入間川) 10~30 (m ³ /s)	南畑排水機場 (新河岸川→荒川) 30~60 (m ³ /s)
<p>荒川の「排水機場」は、台風、集中豪雨などによる洪水から人々の生命と暮らしを守るための河川管理施設です。</p> <p>洪水時において水門等は本川から支川への逆流を防止し、排水機場は支川に溜まった水を本川へ強制的に排水する施設です。</p>	 <p>昭和48年完成。平成12年ポンプ増設。 最大排水能力15m³/s 和田吉野川からの逆流を防ぎ、通殿川下流域に広がる農耕地の湛水被害を軽減しています。</p>	 <p>昭和56年完成。平成6年・13年ポンプ増設。 最大排水能力30m³/s 荒川及び入間川の外水の影響を防ぎ、川島地区の内水被害を軽減しています。</p>	 <p>昭和61年完成。 最大排水能力60m³/s 新河岸川の水を、新河岸川放水路・びん沼調節池を経て機場のポンプで荒川に強制的に排水し新河岸川流域の浸水被害を軽減しています。</p>
運転状況	運転停止	—	運転停止
累計排水量	210,000m ³		153,000m ³
運転開始日時	8月30日10:20		8月30日14:20
運転終了日時	8月31日7:00		8月31日11:50 ※

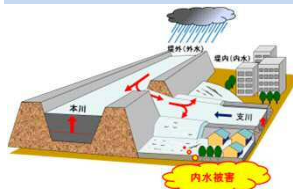
排水機場の役割

普段は・・・



平常時、堤内側の支川の水(内水)は本川に自然に流れ込んでいます。

大雨が降ると・・・



台風、集中豪雨などが発生した場合、本川には各支川の水が流れ込み、水位が高くなります。

本川の水位が上昇し支川へ逆流した水と支川流域に降った雨水は内水被害を引き起こします。

「排水機場」があれば・・・



そこで支川に溜まった水をポンプで吸い揚げ、本川に吐き出します。この働きにより内水被害が少なくなります。

※南畑排水機場は、水位の状況から運転実施の判断をするため、現地で判断のための待機を終えた日時を運転終了日時とした。

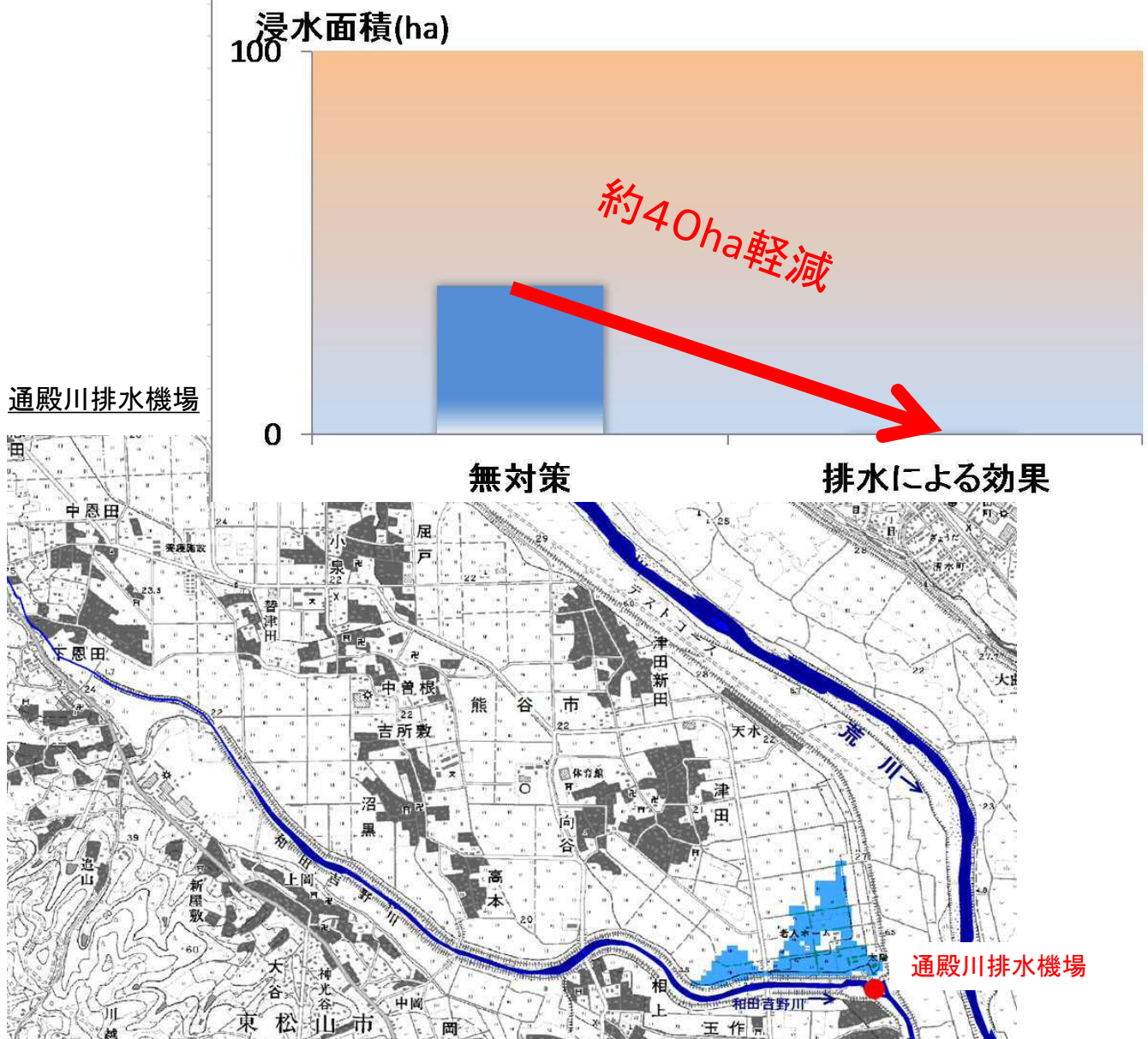


排水機場が浸水防止効果を発揮

■通殿川排水機場の効果

今回の出水で稼働した排水機場は支川の内水による浸水を防止・抑制するために建設されたものです。仮に各排水機場がなかった場合には、以下のような浸水被害が発生したと予想されます。なお「今回の出水による浸水面積」は、当事務所で把握している範囲で記載しています。

排水機場	今回出水による浸水面積	水門が無かった場合の浸水面積
通殿川排水機場	—	約 40ha



■ 排水機場が無かった場合に浸水が予想される範囲

災害対策車両の運用状況

■排水ポンプ車 稼働実績

排水ポンプ車 出動先	宮下樋管 (上尾市領家)		
排水能力	0.5 (m ³ /s)		
運転状況	帰還		
累計排水量	20,700m ³		
運転開始日時	8月30日15:15		
運転終了日時	8月31日8:30		



主な災害対策機器

排水ポンプ車	照明車	Ku-SAT II (衛星画像伝送装置)
排水ポンプ車は、機動性を生かして迅速かつ確実に目的地(出水箇所)へ移動し排水作業を遂行することを目的とした災害対策機械です。	照明車は、夜間作業時に災害現場を明るく照らし、災害復旧などを安全に行えるようにするほか、避難所などの照明として設置することもできます。	地上の通信が使えない時でも、日本中どこでも災害現場などから情報を伝えることができる可搬式の衛星通信機器です。
		